



通院介護センター 「さわやか」 第六回総会

十一月三日(日)十四時より小倉北中央公民館第一会議室で、通院介護センター「さわやか」の第六回総会が開催されました。参加者は北九州地区腎友会の幹事さんと「さわやか」の事務局員、併せて二十六名でした。

岡副会長の進行で開会し、最初に山田コーディネーターより以下のように一年間の報告がありました。

【活動報告】
平成十三年四月～十四年三月までの送迎回数七、二六六回。平成十四年九月末現在のボランティア登録者数一六〇人・利用登録者数六二人。

【問題点】
地域的にボランティアさんの数の差があり全体的に不足しています。透析施設や公民館など公共の場所にボランティア募集のポスターの掲示をお願いしています。また北九州市腎友会の幹事さんに「さわやか」に対するご理解とご協力をお願いし、腎友会の会員さんにも併せてご協力をお願いしていききたいと思います。
【成果】
五周年記念式典等によって

北九州市の障害福祉課や各病院の先生方のご理解とご協力が一層得られるようになったものと自負しております。
ホームヘルプ事業いきいき北九州との連携により、介護保険を利用しての方の送迎も可能になりました。

北九州市のボランティアセンターとの情報交換ができるようになりました。センターよりボランティアの紹介を頂いています。

◇ ◇ ◇
続いて梶原コーディネーターより平成十三年度の決算報告そして寄友事務局より平成十四年度予算案(事業計画書)の報告がありました。

また役員の新補充として三名の就任が了承されました。活動の幅を広げていけるよう、これまでの実績や、現場を掌握しているということでの選任です。

副会長 山田 浩美
役員 梶原 待子
役員 河添 博志

以上三名です。
河添さんはホームヘルプ事業いきいき北九州のお仕事をしながらの兼務になります。

ご挨拶

「さわやか」とは切り離せない「いきいき」とのパイプ役とお願ひ致しました。
最後の質疑応答ではボランティアの預託制度の説明や総会の開催時期の再考など、北九州市腎友会の幹事さんから様々な意見が出され、活発な討議になりました。

副会長 山田 浩美

通院介護センター「さわやか」が開所して、七年目を迎える事ができました。これも、ボランティアの皆様をはじめ北九州市腎友会の会員、行政及び透析施設など、多くの方々に支えていただいたお陰と感謝申し上げます。この度、第六回通院介護センター「さわやか」の総会で副会長という大任を拝することに

なり、改めて身の引き締まる思いが致しております。これから、皆様のお力をお借りして、少しでも利用者の方々のお役に立ちたいと思っております。また全国に広がった通院支援事業の仲間や、これから事業を始める方々に恥ずかしくないように共に頑張りたいと思っております。

役員 梶原 待子

山田副会長と共に相談しながらさらに頑張っていきます。

今月のトピックス

去る十月二日(木)北九州市八幡東区槻田市民福祉センターのボランティア養成講座で「さわやか」の江頭会長が講演しました。

これは、八幡事業所のボランティア、勝原祥蔵さんのご紹介で、同センターに「さわやか」のポスターを貼らせていただくようお願いに行つた際に、館長の大島武子様より、「実際に活動している団体の方のお話をボランティア講座で伺いたい」という事で実現しました。

江頭会長は、人工透析とは何か、なぜ透析患者に通院送迎が必要なのか、北九州市の障害者小規模共同作業所に指

定されている「さわやか」の役割など、約四十分間にわたっての講演でした。また、ボランティアとは何か、という話になると、映画「蛭」の話から「ベルサイユのばら」などの話をユーモラスに交えながらの熱弁でした。

十数名の聴講者の方々は、「さわやか」のようなボランティア活動があることを知らない方が多く、大変関心をもたれ、熱心に聞かれました。また透析医療をご理解していただく良い機会になったものと思います。

後日大島館長よりお電話をいただき、「聴講者の皆様に大変好評でしたので、次回も機会があればぜひ講演をお願いしたい」と、有難いお言葉をいただきました。

マスコットを作りましたヨロシク!



「さわやか」秋の文化祭

今あちらこちらで文化祭たけなわです。わが「さわやか」のボランティアさんも多彩なご趣味をお持ちの方がたくさんいらっしゃいます。『能ある鷹は爪をかくす』の諺どおり、お話しをお聞きしないとわかりませんでした。その中から、小倉事業所から三人のボランティアさんの作品をご紹介します。

平村 千鶴子さん



退職して十年、少しでも喜んでくださる人がいればという思いから始めたボランティア。私の趣味を生かして、母親クラブのお母さん方と週に一回世間話をしながら、作品の出来上がるのを楽しみにしています。私も今年古稀を迎え、体力の衰えを感じながら駆足で過ぎ去っていく「時間よ止まれ」と思いながら、元気な間は「さわやか」のお手伝いを楽しみながらさせていただきたいと思います。



橋口 洋三さん

子供の頃から、家に明治・大正文学全集と世界文学全集があった故か、尾崎紅葉・森鴎外・ゲーテ・イプセンなど勉強そっちのけで読みふけた。サードライブに入って、またぞろ新聞で新刊本や書評を見ると興味を持った本を衝動買いしている。と言っても文学本ばかりではなく、推理小説や官能小説まで幅広く楽しんでいる。

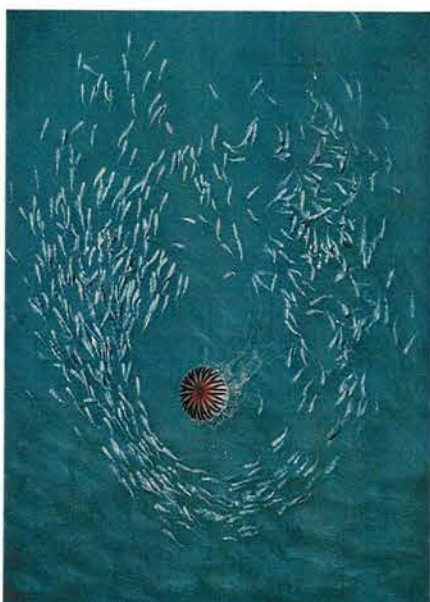
先般9月20日には福岡市に渡辺淳一の講演を聞きに行った。氏曰く、「青春には年齢は無い。いくつになっても元気であれば大いに恋愛した方が人生楽しいよ。」同感同感。



谷 安さん



会社を定年退職後、平成8年(62才)カメラを新調し複数の写真クラブの先輩方にご指導を願い、時には撮影に同行してアドバイスも受けております。写真を始めてからは、テレビ画面の風景・街並み・人物等の構図や捉え方に深く興味をもつようになりました。また各種コンテストに応募し審査の先生方からのコメントが励みの根源になっております。今後も健康維持のため郊外を歩き廻ろうと思っております。



クラゲ「遊星」

太陽の周囲を惑星が回っているイメージです。新門司・恒見海岸で撮りました。3月～5月ごろがシーズンです。天候(風光)により月に十数回の撮影。特に小魚が取り巻くのはシーズンに数回です。



海鷗「鳥たちの朝」

志賀島で12月～3月初旬です。海鷗は夜明け前、餌取りに海に潜り、日の出ごろから岩に止まり羽を広げて乾かします。

(注 印刷上、写真の本来の美しさが出しきれておりませんがご了承ください)



カタクリ花「天使の帽子」

カタクリの花は看護師さんのナースキャップに見え、天使が帽子を被ると後光が射すであろうと思い、題にしました。花丈は10cm前後ですのでレンズはマクロ(虫眼鏡)です。花との距離は20cm位ですから寝そべて撮りました。

広島県六日市での撮影です。